

新宿区教育委員会会議録

令和6年第3回臨時会

令和6年7月18日

新宿区教育委員会

令和6年第3回新宿区教育委員会臨時会

日 時 令和6年7月18日(木)

開会 午後 1時30分

閉会 午後 3時47分

場 所 新宿区役所6階 第2委員会室

出席者

新宿区教育委員会

教 育 長	針 谷 弘 志	教育長職務代理者	年 綱 和 代
委 員	古 笛 恵 子	委 員	星 野 洋
委 員	鴨 川 明 子	委 員	的 場 美 規 子

説明のため出席した者の職氏名

次 長	遠 山 竜 多	教育調整課長	齊 藤 正 之
教育指導課長	坂 元 竜 二	指 導 主 事	馬 場 園 和 也
教科用図書 検討委員会委員	池 田 知	教科用図書 検討委員会委員	井 田 琢 麻
社会科調査 委員会委員長	門 脇 伸 也	理科調査 委員会委員長	賀 屋 寛
国語科調査 委員会委員長	安 田 昭 仁		

書記

教育調整課 主 査	古 市 将 貴	教育調整課 管 理 係	大 原 颯 人
--------------	---------	----------------	---------

議事日程

協 議

- 1 令和7年度使用新宿区立中学校教科用図書の採択について（教育指導課長）

◎ 開 会

○教育長 ただいまから令和6年新宿区教育委員会第3回臨時会を開会します。

本日の会議には、全員が出席しておりますので、定足数を満たしています。

本日の会議録の署名者は、鴨川委員にお願いします。

○鴨川委員 承知いたしました。

◆ 協議1 令和7年度使用新宿区立中学校教科用図書の採択について

○教育長 本日は、議事はございません。

前回に引き続き、協議1 令和7年度使用新宿区立中学校教科用図書の採択についての協議を行います。

また、本日は、教育委員会会議規則第13条の規定に基づき、教科用図書を専門的に調査した教科用図書調査委員会の各教科委員長に出席していただいております。

次に、本日の協議の進め方についてです。

初めに、専門的に調査検討を行った教科用図書調査委員会の各教科委員長から、種目ごとに「学習指導要領の中での目標」、「教科の特性等」、「調査委員会における調査の内容」、「その他評価を決定する上での主な議論」などについて説明を受け、質疑を行います。

次に、教科用図書検討委員会の検討結果について、検討委員会委員から説明を受け、質疑を行い、採択の対象となる教科用図書の絞り込みを行います。

その後、これまでの協議において、採択の対象となる教科用図書の絞り込みが2種となっている数学について、改めて採択の対象となる教科用図書の候補を1種に絞り込みたいと思います。

なお、本日協議する各種目の教科用図書については、8月2日に開催する予定の教育委員会定例会で、採択を行うことを予定しています。

それでは、まず、社会（地理的分野）について御説明をお願いします。

なお、この後の説明につきましては、着座にてお願いいたします。

○社会科調査委員会委員長 社会科調査委員会調査の結果について、説明いたします。

それでは、社会科の総括的な目標、そしてそれに基づいた3つの柱に基づいた（1）から（3）、細分化された目標、そして教科書の構成と、その点を踏まえて地理的分野教科用図

書の調査報告をいたします。

まず、各発行者の共通事項についてです。小学校の社会科とのつながりについて、解説したり分かりやすく表示したりしてあります。例えば編、章、節の初めに小学校の社会科で習った言葉を明記したり、平易な言葉で問いやクイズ、解説を載せたりしています。さらに、目次や見出し、編、章、節のページにより色別に用いて、構成が分かりやすい工夫を施しています。

単元のまとめに小集団での対話的な学習、話し合いを行いやすい設定がされています。

また、編、章、単元の終わりに、振り返りやまとめを行いやすい設定がされています。

また、写真や地図、イラストには大きさや鮮明さ、視覚的に興味・関心を引きつけるものが掲載されています。

次に、各発行者の編集の違いについてです。学習内容をより深められる課題が分かりやすく示されているかどうか、このことにより小集団での対話的な学習、つまり話し合いが深まるかどうか、地図帳を併用することで、図、統計資料や動画と関連づけて知識及び技能の向上を効率よく進められるかどうか、授業時数と学習内容の量から、授業内の振り返りもさることながら、家庭での学習への取り組みやすいものとなっているかが評価の差となりました。詳細のところは、報告書を御覧ください。

次に、授業と教科用図書の扱いについてです。

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善が望まれる中、実際の地理の授業で教科用図書がどのように使われているかを説明いたします。この主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善は、これまでも小学校を中心に、中学校においても授業改善は積極的に進められてきています。現行の学習指導要領を受けて、その取組の質もさらに向上させることが目指すところです。

しかし、授業時間は1コマ50分なので、1年生は地理は週1回か2回、歴史の授業と合わせて105時間、2年生も地理は週1時間から2時間程度であり、歴史の授業と合わせて105時間。105時間というのは、繰り返しますが、地理と歴史を合わせて105時間です。

中間考査・期末考査を機会にして、地理・歴史の授業時間のバランスは1対2、または2対1になることもあります。

授業時間1コマ50分の中で、授業の流れはおおよそ導入が5分、授業のねらいと授業の構図を大きく捉え、35分から40分ほどで授業展開をします。この中にワークシート等作業を含みます。教科書は、その間ずっと机の上に置いてあります。そして、まとめ、振り返りに5分

ほど。この振り返りの時間を取るか取らないかは、どれほどの時間が割けるか、時間割の組み方や学校行事によっても左右されます。単元の終わりには、問題解決的な学習で1時間から2時間、大体2コマほど取ることもあろうかと思われま。

さて、本調査委員会は地理的分野4者を教科用図書として調査を行いました。繰り返しますが、どの教科用図書も小学校社会科との関連が考慮されております。また、高等学校の新科目、地理総合との接続も見据えた改訂が補足されております。

では、その中で際立って優れたものをお伝えいたします。

帝国書院についてです。

内容の選択について。よりよい社会の実現を視野にして見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う目標がありますが、冒頭より、この点では「未来に向けてよりよい社会を目指して」、SDGsの17点の視点を提示しています。調査や諸資料から、地理に関する様々な情報を効果的に調べ、まとめる技能を身に付けようとする点においても、「教科書を活用した学び方」、これは巻頭5に示され、「地理的な見方・考え方」は、教科書の巻頭8で示され、考えを整理するための方法として、思考ツールの活用を示しています。また、巻頭9では、質をさらに向上させることを目指すところで、思考ツールが活用されています。

構成・分量に関して。地理に関わる事象の意味合い、特色や相互の関連を、また多面的・多角的に考察できるよう、各節の終わりに学習を振り返ろうというページを設定しています。この中で、知識・技能、思考・判断・表現の観点ごとに学習を振り返ることができるよう工夫をしています。つまり基本的な学習をまとめやすく、また記述的な設問もいろいろ用意されているため、学習が定着しやすいということで評価をしております。

総合的な意見として、それぞれの単元ごとの学習を意識しながら、学習を進めることに適した構成となっています。

以上、地理的分野に関してでございます。

○教育長 説明が終わりました。御意見、御質問がありましたら、お願いいたします。

[発言する者なし]

○教育長 特に御意見などないようですので、続いて、社会（歴史的分野）について御説明ください。

○社会科調査委員会委員長 それでは、歴史的分野の教科用図書について報告をさせていただきます。

今回、調査委員会としては社会的事象に対して、なぜという問いに、資料などを参考にしながら論理的に推論を立てて、自分の言葉で説明できることを導く工夫があるか、この点を踏まえて、歴史的分野教科用図書の調査において報告いたします。

各発行者共通していることについては、小学校社会科とのつながりについて解説したり、また分かりやすく表示したりしております。これも地理的分野と同じように、例えば編、章、節の初めに小学校の社会科で習った言葉を明記したり、平易な言葉で問いやクイズ、解説を載せたりしています。さらに、目次や見出し、編、章、節のページにより色別に構成をし、見た目が分かりやすくなるような工夫をしております。

単元のまとめに、小集団での対話的な学習を行いやすい設定もされています。編、章、単元の終わりに、振り返りやまとめを行いやすい設定もされています。写真や地図、イラストには、大きさ、または鮮明さ、視覚的に興味・関心を引きつけるものも掲載されています。さらに、コラムや特設コーナーで教科書本文を補う興味・関心を引きつける内容も用意されています。

各発行者の編集の違いについては、地図帳を併用することで、図、統計資料や動画と関連づけて知識及び技能の向上を効率よく進められるかどうか。授業時数と学習内容の量から、授業内の振り返りもさることながら、家庭での学習への取り組みやすいものとなっているかどうか、そこが評価の差となりました。

次に、授業と教科用図書の扱いについてですが、地理的分野と同じように、1年生は週1時間から2時間程度、地理の授業と合わせて年間105時間という制限がございます。2年生も同じく週1時間から2時間程度で、地理の授業と合わせてやはり105時間、授業時間は1コマ50分でございます。導入5分で授業のねらいと授業の構造を大きく捉え、35分から40分程度の授業を展開します。この中にワークシート等作業も含まれます。その授業時間中は、教科書は机上にある状態です。

本調査委員会では、歴史分野9者の教科用図書について調査を行いました。繰り返しになりますが、どの教科用図書も小学校社会科の各内容と関連づけが考慮されております。また、高等学校の歴史総合への接続を見据えていた内容となっております。

その中で際立って良い教科書について御紹介いたします。帝国書院です。

内容の選択について。SDGsの17の視点で持続可能な社会を実現するために歴史を学ぶと、この教科書は始まります。そして、これから社会に向けて、過去の人々が取ってきた行動の一例を見てよりよい社会をつくっていかうと提示しています。

また、巻頭の5では、教科書を活用した学び方を示し、巻頭の8では、歴史的な見方・考え方を示し、自らの考えを整理するための方法として、巻頭9では、思考ツールの活用を示しております。生徒が社会的事象を追究するための教材として、精度が高いものと評価しております。

構成・分量について。各章の終わりに「学習を振り返ろう」というページを設定しており、「節の振り返り」として、知識、思考・判断・表現の観点の工夫がされております。

各ページで、節ごとの問いも設定され、単元を貫く問いを意識しながら、毎回の授業の学習が振り返れるような工夫があります。

表記・表現について。単元のページに掲載された写真は大きく分かりやすく、「タイムトラベル」では、各時代の様子をつかまえる上で大変適切な教材となっております。

「タイムトラベル」の学習の仕方は、イラストを用いて時代の移り変わりや事柄の比較により、これらの学習の全体像を捉えやすくしております。

総合的な意見として、様々な手法を駆使し、生徒に興味・関心を持たせるような構成や内容になっている。現在とのつながりやSDGsとのつながりを意識させるコーナーもあり、これからの社会を生徒に構想させるようなつくりになっているということで、帝国書院をA評価としました。

以上です。

○**教育長** 説明が終わりました。御意見、御質問がありましたら、お願いいたします。

[発言する者なし]

○**教育長** 特に御意見などないようですので、次に社会（公民的分野）について御説明ください。

○**社会科調査委員会委員長** 公民的分野、公民の教科用図書について調査委員会の報告をいたします。

こちらのほうも総括的な目標を基にし、さらに3つの柱から（1）（2）（3）の目標を設定し、教科書の構成を踏まえまして、調査報告をいたします。

まず、各発行者の共通しているところです。単元のまとめに小集団での対話的な学習、話し合いが行いやすい設定がされています。編、章、単元の終わりに振り返りやまとめを行いやすい設定もされています。写真や地図、イラストには大きさや鮮明さ、視覚的に興味・関心を引きつけるものが掲載されております。コラムや特設コーナーは、教科書本文を補う興味・関心を引きつける内容となっております。高校の新科目、公共への接続を見据えた記述

も設けられています。

各発行者の編集の違いについては、調査報告書を御覧ください。

授業と教科用図書の扱いについて。主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善が望まれる中、実際の公民の授業では教科書がどのように使われているか。1コマ、中学校ですの50分です。3年生は1学期で歴史分野が週4時間程度あり、1学期後半の期末考査を境に、公民分野の授業へ入れ替わる場合が大方でございます。

また、歴史と併用して行われる場合には、歴史の時間が週2時間程度あり、公民の授業が週2時間程度ある。ここで合わせて年間140時間。期末考査を機会にして、歴史と公民の授業のバランスを少しずつ傾斜していきます。授業時間は50分です。導入が5分、本時のねらいと授業の構造を大きく捉えると、やはり35分から40分程度で授業展開を行います。この中に話し合いやワークシート等の作業も含めると、実際に5分程度取れるかどうかということになります。単元の終わりには問題解決的な学習、大体1コマから2コマ要することになります。

調査委員会としては、際立って優れたというところで、帝国書院を取り上げます。

内容の選択について。生徒の社会参画を促すように本文の記述が工夫されています。生徒にとって身近な6つのテーマを「技能をみがく」ということで、主体的・対話的な学びによって、知識と技能が獲得できるような工夫がされています。

内容構成について。「アクティブ公民」を10テーマほど設定し、具体的なテーマを通して「現代社会の見方・考え方」を働かせ、生徒の思考を深めるための工夫がされています。各単元の中に「確認しよう」「説明しよう」の課題を設け、思考を深め、表現させる機会も設定されています。

総合的な意見として、写真・挿絵・図版ともに鮮明であり、とても見やすい。また、時事的な写真が掲載されており、生徒の興味・関心を高めやすい。各章の導入・まとめ、各単元に設定されている課題は、視覚的な要素も含め、生徒が意欲的に学習に取り組める内容となっており、特に「アクティブ公民」の10テーマや「技能をみがく」など、主体的・対話的な学びから生徒の思考を深めるための構成の工夫が際立ちます。また、全体の各所に生徒の社会参画を促す記述が見られます。生徒自身も一人の公民であることを気づかせるような構成となっていることが特筆されています。

また、第1部より、部の導入「学習の前に」において、イラストを用いて時代の移り変わりや事柄の比較をすることにより、これらの学習の見通しを立てやすくする工夫もしており

ます。

以上、公民分野の調査結果を報告いたしました。

○**教育長** 説明が終わりました。御意見、御質問があれば、お願いいたします。

教科書採択と直接結びつくかどうか分かりませんが、公民ということで質問させていただきます。

公民は、人権や、自由と権利、責任と義務といった分野を幅広く学びます。そして、経済活動や国際関係、あるいは他国の尊重、平和など、これから生きていくに当たって必要である基本的な能力を身に付けていただきたいと思います。授業やその他生徒と接する場面を想定しながら、公民にどんなことを期待しているか一言お話しいただけますでしょうか。

○**社会科調査委員会委員長** 平成29年の学習指導要領から、章や単元を通しながら1つの軸を持つづくりがされています。例えば、帝国書院の冒頭ですが、SDGsをどう取り上げていくかということを出発点として、これを理解できるような子どもたちを育成していこう。そして、自分たちがやがてどのような公民となるか、または様々な課題に向けて自分が何ができるかということを考えさせるづくりとなっています。これを教員と生徒が共に話をしながら、また生徒同士が話をしながら、お互いにできることを気づいていったり、また、そうしていきたいという思いをつくっていきながら公民の授業の展開として行われております。

○**教育長** ほかに御質問がありましたらお願いいたします。

〔発言する者なし〕

○**教育長** ほかに、御意見・御質問がなければ、次に、地図について御説明ください。

○**社会科調査委員会委員長** 地図帳は、進級・進学するに従って、より専門性が高まっています。教科用図書と連携した内容であればあるほど、活用が進むものと期待しております。そして地図帳は、地理及び歴史、公民の授業、小・中一貫して生活の中において利用でき、そして最も社会的な見方・考え方が育まれるものではないかと捉え、調査いたしました。

そのため、各発行者共通して、内容、構成・分量、表記・表現、地図帳の凡例や使い方に工夫されており、それほど大きな差はございません。

以上となります。

○**教育長** 説明が終わりました。御意見、御質問がありましたらお願いいたします。

〔発言する者なし〕

○**教育長** 御意見、御質問がなければ、次に、理科について御説明ください。

○理科調査委員会委員長 理科調査委員会の調査結果について、御説明いたします。

お手元の報告書を御覧ください。報告書をめくっていただくと、学習指導要領における理科の目標が記載されております。

学習指導要領では、自然の事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成することを目指すとあります。そして、3つの視点で育成していく目標を掲げています。

1つ目は、知識及び観察、実験などの技能です。2つ目は、科学的に探究する力です。3つ目は、科学的に探究しようとする態度、いわゆる学びに向かう姿勢です。

理科は、物理と化学が第1分野、生物と地学が第2分野となっており、分かれております。物理では、エネルギーの領域を中心として、量的な見方・捉え方、化学では、質的な見方・捉え方、生物では共通性や多様性を見方・捉え方、地学では時間的あるいは空間的な見方・捉え方を育成していく内容となっております。

それぞれの内容を比較したり、関連づけたり、条件を変えたり、様々な視点で考えられるようにすることで、理科の見方や考え方を育成することが大きな目標でございます。

それでは、次に各発行者の総合評価と、特に優れた点や特徴についてです。

本調査委員会では、区の特徴や実態に応じた内容と構成、分かりやすい表記・表現、生徒の主体的な学びや探究に適しているかという視点で、調査を実施いたしました。

報告書は5者で5ページにわたりますので、ポイントを中心にお話しさせていただきます。

まず、1つ目の発行者は、東京書籍です。

東京書籍の総合評価はAといたしました。総合的な意見として、どの単元も説明が丁寧であり、かつ各単元の終わりに学習内容の整理が示され、使いやすい。また、科学と日常生活を関連付けたり、教科横断的に学習内容を取り上げたりしているので、興味・関心を喚起し、主体的な学びにつなげやすいという点が挙げられます。

1年生の教科書、108ページをお開きください。

導入から発展まで系統立てられています。具体的には、問題発見、仮説、分析解釈、活用、章末問題と、どの単元においてもこの流れに沿って繰り返し進めることにより、探究に結びつきやすく、工夫されています。

また、1年生の教科書、137ページを御覧ください。

「社会につながる科学」として、日常生活等で培ったこれまでの学びを社会人のインタビ

ューを通じて取り上げています。それが将来的にどのようなにつながっていくか紹介し、科学の有用性を伝えています。

次に、2つ目の発行者、大日本図書についてです。

大日本図書の総合評価はCといたしました。この教科書は現在新宿区が採択している教科書であり、教員が使い慣れているという利点があります。また、教科書の大きさはB5サイズであるため、毎日多くの教科書を使う生徒にとって、持ち運びの負担にならないという点を評価しました。

次に、3つ目の発行者、学校図書についてです。

学校図書の総合評価はCといたしました。総合的な意見として、巻頭と巻末が充実している。また、タブレット端末を使用して多言語表記になるため、外国籍等の生徒への配慮がなされている点が挙げられました。これは外国籍の生徒が多く在籍する新宿区に適している点であると評価しました。

1年生の教科書、216ページには、補充資料「春に花がさく被子植物」がまとめられています。また、241ページからは、補充資料「思考をさらに深める」があり、全学年で共通して探究や発展学習として使いやすく、深い学びに結びつきやすいと意見がありました。

次に、4つ目の発行者、教育出版についてです。

教育出版の総合評価はCといたしました。総合的な意見としては、シンプルな構成でコンパクトにまとめられている点が挙げられました。

1年生の教科書、119ページを御覧ください。

「ハローサイエンス」の読み物があります。これは119ページに限らず、131ページ、155ページなど、ところどころに掲載されています。

この「ハローサイエンス」では、生活に関する知識であったり、科学者の生涯であったり、最新の科学などの情報であったり、多様な内容を取り上げることにより、生徒の興味・関心を高める工夫がなされています。

最後になります。5つ目の発行者、啓林館についてです。

啓林館の総合評価はBといたしました。総合的な意見として、二次元コードを使用することによって、生徒の理解を深める工夫がなされている。また、身近な事柄をコラムに取り上げ、科学と関連して考えることができるよう構成されている点が挙げられました。

加えて、全学年の教科書の初めに、普通のページではなく黒塗りの丸で示されている7ページ、8ページというところがあります。そこには共通して「ICTの活用」がまとめられ

ているので、タブレット端末を活用した個別に学習を進めやすい点を評価しました。

また、巻末には「探Qシート」がまとめてあるのですが、経験の浅い教員にとって、生徒の探究活動を行いやすく、授業改善には有効であるという意見がありました。

調査委員会としては、どの教科書もそれぞれの特徴、工夫と良さを感じました。その中で教科を教える立場として、授業でどのように使用し、興味・関心を高め、知識・技能を定着させ、深い学びにつなげていくかの具体的なイメージを共有して報告書にまとめさせていただきました。

以上、理科調査委員会の調査報告とさせていただきます。

○教育長 説明が終わりました。御意見、御質問がありましたら、お願いいたします。

[発言する者なし]

○教育長 御意見・御質問がなければ、次に、国語についての御説明ください。

○国語科調査委員会委員長 現行の学習指導要領が令和3年度から全面实施され、4年目を迎えています。以前は、5観点だった評価項目が知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度の3観点となり、国語科の在り方も変化してきました。語彙指導、情報の扱い方の指導、言語文化に関する指導、言語活動の工夫、読書指導など多岐にわたっています。

そうした指導項目を、国語科では学年が進む中で系統的・段階的に学べるように取り組んでまいりました。

本調査委員会では、合計4者の教科用図書について、今申し上げた基本的な考え方にに基づき調査を行いました。

A評価から順にお伝えします。

光村図書です。教材の内容、単元の構成、古典作品の取り上げ方が生徒の実態に即しており、実際の指導の場面において多様な授業展開がしやすい印象です。

古典作品の単元名が作品を象徴する一節となっていて、生徒が内容を理解しやすくなっています。また、単元名が明確で、何を学習するかが図解により分かりやすいレイアウトになっています。絵巻物や写真が多く掲載されており、社会、理科など他教科との関連性を持たせた資料であり、イラスト、写真なども効果的な配置となっております。

また、語彙ブックがあり、イラストにより文脈を通して語彙を増やし、使えるようにする配慮がなされています。

文学作品については、新旧の交代を図りつつ、継承すべきものは読み物に配置するなど、

バランスよく教材選定をしている等の点からA評価としました。

B評価の教科用図書についてです。

まず、東京書籍です。学習目的に対し、それを学んでいくプロセスが視覚的に目次や単元に示されており、学習者に見通しをもたせる指導が行いやすい構成となっています。また、漢字道場のコーナーなど、書き込んで学習することを想定して作られているように感じられ、教科書を活用する幅が広がるとの評価から、B評価としました。

次に、三省堂です。説明的文章において、新規の教材が多く採用されていました。また、説明的文章の読解への導入が丁寧で、生徒が学びやすい配慮がなされています。表記については、印刷における色の発色が美しく、図や絵などの資料がとても見やすく、生徒に現物をイメージさせやすいと考え、B評価としました。

最後は、教育出版です。生徒の学習内容に応じて、短い例文や教材が「学びナビ」として別途収録されており、多くの文章に触れさせることができる構成になっています。表記については、ユニバーサルデザインの観点でデザインされており、生徒の気が散りにくい配慮がなされています。

また、授業の展開の例示や生徒の個に応じた指導がしやすい工夫が随所にあり、指導計画を立てやすいと考え、B評価としました。

なお、C評価はありませんでした。

それぞれ工夫された教科用図書でしたが、国語科調査委員会としては、学習指導要領で求めている資質・能力について、新宿区の生徒から見て学びやすいという部分や、読書を通じて生徒の思考を深め鍛えるためには、定番も含めて読み応えのある教材が必要であると考え、評価しました。

以上です。

○**教育長** 説明が終わりました。御意見、御質問がありましたら、お願いいたします。

[発言する者なし]

○**教育長** 御意見・御質問がなければ、次に、書写について御説明ください。

○**国語科調査委員会委員長** 続いて、書写の教科書について述べさせていただきます。

書写に関しては、我が国の言語文化に関する事項として、書写の能力を学習や生活に役立てることが重要視されています。観点としては、知識及び技能を理解して、効果的に書くことができる力を育成することが求められています。

さて、本調査委員会では、合計4者の教科用図書について調査を行いました。

A評価から順にお伝えします。

光村図書です。別冊書写ブックが機能的で充実しており、家庭学習に生かしたり、主体的に取り組んだりできる構成になっています。また、学習の目的を明確にすることで、主体的な学習につながり、習得と活用を繰り返すことで、確かな書写の力を身に付けることができるようになっています。

「文字の歴史をさぐる」、「なりきり書聖」など、生徒の興味・関心に応じて書写学習を発展させられる構成になっています。

表記については、概してモノクロ調になりがちな書写教材において、文字の配置、季節のイメージなどを豊かな色彩で効果的に配置し、生徒が生活に根づいたイメージを踏まえて書写の学習に臨めるように配慮されているので、生徒が教材に関心を持って学習に迎えるようにつくられていることから、A評価としました。

B評価の教科用図書についてです。まず、東京書籍です。「文字を『書く』ってなんだろう」のように、中学生の視点で親しみやすくデザインされており、視覚イメージから意欲的に取り組めるような工夫があります。

また、各学年末のまとめとして、「書写テスト」が設定され、生徒が目標を明確に持って取り組めるため、B評価としました。

次に、三省堂です。学習内容が一目で分かるような工夫がされており、自覚的に学習に取り組むことができる構成になっています。表記においては、ユニバーサルデザインの観点から紙面が構成されており、シンプルで学習に集中できる配慮があります。

また、他教科との関連を意識した教材提示が多く、教科横断的な学習をしやすいため、B評価としました。

最後は、教育出版です。紙質が工夫されており、また、少し大きめのサイズのため、書き込みがしやすいものになっています。そして、試し書きから考えよう、生かそう、振り返ろう、日常生活に生かそうというような系統的、段階的な学習が計画されており、生徒が主体的、意欲的に学習に取り組むことができることから、B評価としました。

なお、C評価はありませんでした。

書写の教科用図書としては、どの教科書も新しい時代に合わせて優れた出来となっており、明らかな差はほぼありませんでした。

以上です。

○教育長 説明が終わりました。御意見、御質問がありましたら、お願いいたします。

[発言する者なし]

○**教育長** 特に御意見、御質問がなければ、これで「学習指導要領の中での目標」、「教科の特性等」、「調査委員会における調査の内容」、「その他評価を決定する上での主な議論」などについての質疑を終了します。

続いて、教科用図書検討委員会の検討結果について、検討委員会委員から、種目ごとに説明を受け、質疑を行い、採択の対象となる教科用図書の絞り込みを行います。

それでは、まず社会（地理的分野）について、説明をお願いいたします。

○**教科用図書検討委員会委員** 社会科（地理的分野）についての調査検討内容の説明を行います。

まず、学校調査の結果についてでございます。

最もA評価が多かったのは帝国書院で、10校中7校がA評価でございました。調査委員会の調査結果につきましては、東京書籍、教育出版、帝国書院、日本文教出版の全てが総合評価でA評価でございました。

検討委員会では、帝国書院をA評価といたしました。その理由、意見として、それぞれの単元ごとの学習課題を意識しながら、学習を進めることに適した構成となっている。問いの立て方に優れ、学び方が明確に示されているなどの意見が挙げられておりました。

また、検討委員会では他者に関する意見として、東京書籍は、学習課題に合わせ課題解決的な学習を進めることができるようになっており、学習の流れが分かりやすいなどが良い点として挙げられておりました。

最終的に検討委員会として、学校調査、調査委員会調査の報告などを踏まえ、教科書を確認しながら総合的に判断した結果、学校調査でA評価が最も多く、調査委員会でも評価のよかった帝国書院をA評価といたしました。

以上でございます。

○**教育長** 説明が終わりました。御質問がありましたら、お願いいたします。

[発言する者なし]

○**教育長** 特に御質問がなければ、採択に最もふさわしいと考える教科用図書について、各委員の御意見を確認したいと思います。

初めに、年綱職務代理人からお願いいたします。

○**年綱委員** 私は、帝国書院がいいと思えました。

良いと思った点を5つ申し上げたいと思います。

1つ目は、小学校で学んできたこと、歴史、公民、他教科との関連が各単元のページに示されており、多面的な見方・考え方に気づき学んでいくことができること。2つ目は、知識の振り返りと思考・判断・表現の振り返りに分けられていることで、自分の考えがまとまりやすいこと。3つ目は、地図の活用のアイコンがあることで、地図を活用し効果的な学習につなげることができること。4つ目は、豊富な写真は、地図や資料への興味・関心につながり、地図帳と色のトーンが同じなので見やすく、地域の特性をつかみやすいと思ったこと。5つ目は、思考ツールのページが地理的分野に適したツールを示しているため、子どもたちがツールを使って物事を考えていく力になると思ったこと。以上の点から、私は帝国書院がいいと思いました。

○**教育長** ありがとうございます。

次に、星野委員、お願いいたします。

○**星野委員** 私も帝国書院を選ばせていただきました。

年綱委員がおっしゃったことと重なる部分もありますが、巻頭にSDGsを掲載していることは、社会科の教科書として重要なことだと思いました。また、「確認しよう」と「説明しよう」というものが学習内容ごとにあり、短い時間でも振り返りができると思いました。

また、地図との連携です。社会科、特に地理的分野のため、地図との連携は大切だと思います。その点について、うまく整理されているので、帝国書院といたしました。

○**教育長** ありがとうございます。

次に、的場委員、お願いいたします。

○**的場委員** 教科書を比較してみて、写真やイラストの美しさ、それから全体的な見やすさ、内容の質、情報量の多さ、それからSDGsについても、帝国書院が圧倒的だと思いました。特に、「写真で眺める」というページでは、世界や日本の地域の様子が一目で分かりますし、日本の地域ごとのイラスト地図は、それだけで特色がすぐ分かるため、授業時間が限られている中においても、視覚的な理解がしやすい教科書だという印象を受けました。

また、「技能をみがく」というコラムも優れており、特に地域調査の仕方の章では、ほかの教科書よりも帝国書院のほうが、地形図の使い方や、ルートマップの作り方について、とても参考になると思いました。

そして、帝国書院の教科書の本当に不思議だと思うところは、ページごとに多くの情報を載せているにも関わらず、レイアウトや色使いが工夫されているからなのか、見やすく分かりやすくまとめられていることです。その点は、大変素晴らしいと感じました。

帝国書院の教科書は、より深く学べるように様々な提案をしている印象でございまして、学習を振り返るだけでなく、「アクティブ地理」や「未来に向けて」、「地理プラス」などの特設ページ・コラムが用意されており、さらにデジタルコンテンツも充実しているため、授業の中で学び切れなかったことを生徒たちが主体的に活用して学ぶには、質と量、ともに十分な内容だと思いました。

以上の理由で、私は帝国書院を選びたいと思います。

○教育長 ありがとうございます。

鴨川委員、お願いいたします。

○鴨川委員 私も帝国書院を選ばせていただきたいと思っています。理由は3つあります。

1つ目は、地図帳とのつながりを意識して選定したというところで、「地図帳活用」のアイコンがあり、教科書で学んだ内容と地図帳との連携が容易に分かる点です。

2つ目には、「技能をみがく」の特設ページです。グラフのつくり方など地理的な技能を磨きながら、探究活動が行えるつくりになっている点がとても良いと思いました。

3つ目は、ほかの先生方もおっしゃっていましたが、「アクティブ地理」というまとめがあり、それがSDGsの課題解決に向けた思考を行える構成になっている点が時宜を得ており、良いと思いました。

以上です。

○教育長 古笛委員、お願いいたします。

○古笛委員 私も地図との関係という意味で、帝国書院が良いと思いました。

予断を持って臨むことのないようにと思っていましたが、社会科において、帝国書院の教科書は他発行者と比べて突出していると感じました。

また、地理については地図帳と関連して考えてみたのですが、コンセプトが生徒にとっても伝わりやすいと思いました。SDGsの範囲についても、地図を見ながら地理を勉強しようという意図もよく伝わってくると思いました。

前回の教科書採択の際に、お話しすればよかったですのですが、どの教科書もイラストで生徒役の登場人物が掲載されております。例えば、教育出版で掲載されている登場人物は、めがねの生徒もいれば車椅子の生徒、外国籍かと思われる名前の生徒が出ています。特に地理に限ったわけではないですが、新宿区では、肌の色、目の色、髪の色も違うなど、様々な生徒が学んでいるため、多種多様な登場人物を載せている点が全体的に良いと感じました。

○教育長 私も皆さんと同様、帝国書院とさせていただきます。

「アクティブ地理」、「未来に向けて」、「地理プラス」などの情報が入っており、多面的・多角的な視点で関連する情報を得ることができるのではないかとといったことや、写真や地図、グラフなども数多く掲載されており、そこから場所や人やもの、歴史などへの興味や想像を広げることが期待できるのではないかと思います。

地理は、自分の身近な地域や、生活などと比較したり関連づけたりすることで、少し離れた場所のことも自分ごととして考えることにつなげられるのではないかと感じたところがございます。

他に、御意見はございますでしょうか。

[発言する者なし]

○**教育長** 特に無ければ、今までの協議内容の確認をさせていただきます。

地理につきましては、本日の協議を踏まえ、皆様の意見として、帝国書院発行の教科用図書を、採択の対象となる教科用図書の候補とするということによろしいでしょうか。

[異議なしの発言]

○**教育長** ありがとうございます。それでは、そのように進めたいと思います。

次に、社会（歴史的分野）について、説明をお願いします。

○**教科用図書検討委員会委員** それでは、社会（歴史的分野）についての調査検討内容の説明を行います。

まず、学校調査の結果についてでございます。最もA評価が多かったのは、帝国書院で10校中8校がA評価でございました。調査委員会の調査結果は、東京書籍と帝国書院が総合評価でAでございました。教育出版、日本文教出版2社がB評価でございました。そして、山川出版社、自由社、育鵬社、学び舎、令和書籍がC評価というところでもございました。

検討委員会では、帝国書院をA評価といたしました。その理由・意見として、覚える社会から考える社会へという流れの中で、各単元の導入部分が優れていること、また、世界史と日本史のつながりや比較を理解しやすく、歴史から現代の状況を学ぶつくりとなっていることなどが意見として挙げられておりました。

また、検討委員会では、他者に関する意見として、東京書籍は、ユニバーサルデザインに配慮した教科書であり、また、思考ツールなどを用い、学習したことを踏まえ、生徒が探究できるよう、単元のまとめが設定されていること。教育出版は、振り返りや単元の見通しが持ちやすく、学習活動が行いやすい内容構成となっていること。日本文教出版は、各単元のまとめとして、例えばかるたの作成や思考ツールにしようとする多様な方法が提示されており、

生徒が意欲的に取り組むことができるつくりとなっていることなどが良い点として挙げられておりました。

最終的に検討委員会として、学校調査、調査委員会調査の報告なども踏まえ、教科書を確認しながら総合的に判断した結果、学校調査でA評価が最も多く、調査委員会でも評価のよかった帝国書院をA評価といたしました。

以上でございます。

○**教育長** 説明が終わりました。御質問がありましたらお願いいたします。

ただいまの説明の中で、覚える社会から考える社会へのフレーズが良いなと思って聞いていましたが、具体的に授業や生徒への指導の中で、どんなイメージをしていますか。どのように生徒にそれを伝えようとしているか、授業に反映しようとしているか教えてください。

○**教育指導課長** 現在、覚える社会から考える社会への転換を図るということは、授業を行ううえで大きな課題であると思っています。社会の事象を自分ごととして捉え、協働的に話し合い活動を踏まえて、社会の構造や解決策を探っていきます。そういった中で、いろんな事象、社会的な事象に基づいて皆で考え、どうすればより良い社会になるか、合意形成していくかの授業が展開されているところでございます。

○**教育長** 従来は、歴史というと暗記教科であるイメージを持っておりましたが、その点についてはいかがでしょうか。

○**社会科調査委員会委員長** 今までは教育長がおっしゃったように、項目を暗記することや、知識を得るための授業が多かったですが、現在は歴史を大観してみるということで、例えば江戸時代であれば、何が起きたのかだけではなく、大きな流れでどのようにして成立し、そして衰退してしまったのか。繰り返しますが、大観するという言い方で授業を進めるようになったところが大きな違いであり、考える授業に移り変わっております。

○**教育長** 御回答いただきありがとうございます。大観するという、また良い言葉を覚えることができよかったですと思います。歴史を一つの流れといいますか、うねりとして大観することが楽しみにも、また面白さにもつながるということで、現場の先生たちが頑張っていられるということがよく分かりました。

ほかに御質問などありますでしょうか。

〔発言する者なし〕

○**教育長** ほかに御質問がなければ、採択に最もふさわしいと考える教科用図書について、各委員の御意見を確認したいと思います。

年綱職務代理者からお願いいたします。

○年綱委員 覚える社会から考える社会、歴史を大観するという観点から見て、私は次の5つの点から、帝国書院がいいと思いました。

1つ目は、何のために歴史を学ぶのかが明確に示してあることです。

2つ目は、地理でも申し上げましたが、小学校での学びの積み重ねの上に地理、公民、他の教科との関連が示されていて、多方面から歴史を考えることができることです。

3つ目は、考えを整理するための思考ツールのページがあるのですが、これが歴史的分野にすごく適したものを示してあることです。比較し、分類し、関連するなど、頭を整理するときにとっても役に立つと思います。

4つ目は、見開きのイラストが見やすくて分かりやすいことです。教科書を見ながらゆっくり考えることができると思います。その反面、時代の流れをデジタルコンテンツを使って一気に確認できたり、「タイムトラベル」で確認できたりするので、興味・関心がさらに高まると思いました。

5つ目は、「アクティブ歴史」や「学習を振り返ろう」のコンテンツがあることです。これらのコンテンツを活用することで、生徒は自ら調べ、主体的に学んでいけると思います。

これらの点から、私は帝国書院がいいと思いました。

○教育長 次に、星野委員、お願いいたします。

○星野委員 歴史の教科書は多くの発行者で作成されているため、学校評価、調査委員会、検討委員会で評価の高かった東京書籍と帝国書院を中心に、検討させていただきました。

両者とも構成も見やすく、写真や絵もきれいですし、章末には練習問題もついています。教科書の見やすさという視点で、評価の差をつけることは難しかったです。

教科書を見ていく中で、特に印象に残ったことは、「タイムトラベル」の絵です。どうしても狭く歴史を見てしまいそうな中で、その時代を俯瞰的に見られるイラストになっております。それを見ることによって、その時代の背景を理解し、それから中身の勉強に入るということで、これはとても良いものだと思います。

また、地理でも出てきましたが、「アクティブ歴史」についてです。自分で勉強し、発展させるということに関して、とても良いなと思いましたので、帝国書院を選ばせていただきました。

○教育長 的場委員、お願いいたします。

○的場委員 私は、東京書籍と帝国書院で非常に悩みました。どちらも見やすく、分かりやす

く、学びやすく、工夫がたくさんある魅力的な教科書でした。本当に甲乙つけ難いですが、最終的に帝国書院を選びました。

このわずかな評価の違いの理由を申し上げますと、例えばペリーの来航に関して、横浜上陸の絵を東京書籍と帝国書院で比較してみると、絵の中の人物付近にペリーや出迎える役人、それからアメリカの船員と説明を掲載し、見てすぐに分かるのは、帝国書院の教科書でした。

また、江戸時代までの日本文化と文明開化で日本に入ってきた文化との戦いを描いた風刺画でも、絵の中に分かりやすく何と何が戦っているのかを書いていたのは帝国書院でした。誰もがみただけで理解しやすい配慮がところどころに見受けられ、授業時間があまり取れなくても、生徒が学びやすい教科書である印象を受けました。

また、帝国書院のほうは、皆さんもおっしゃっておりますように、「タイムトラベル」のコンテンツにおいて、各時代の特色が分かるページがある点にも魅力を感じました。

中学生になっても、絵を眺めながら場面を探していく作業は、好きなのではないかと思います。

単に歴史を覚えるだけではなく、自分のこととして考えられて、また遊び心のある教科書なら、歴史を主体的に学んでいけるのではないかと思います。私は帝国書院を選びました。

○教育長 続いて、鴨川委員、お願いいたします。

○鴨川委員 歴史であれば特に、覚える社会、考える社会、体感する社会のフレーズがとても良いなと思いつつ、私はもう一つあるのではないかと考えています。それは、覚える、考える、体感するの先に、行動する社会とすることです。歴史的な知識を得て、考え、それでもその考えが行動につながらないのであれば、学んだ意味がないと思っています。その意味で、行動につながるような導き方をしている帝国書院の教科書を選ばせていただきました。

具体的に申し上げますと、各章のまとめで、特設ページ「学習を振り返ろう」があります。特に現在とのつながりを意識していることが分かり、生徒が身近なところにつなげて考えることができる点です。もう一つは、SDGs とのつながりが考えられるようになっている点で、この点が行動する社会につながっていると考えています。特に、SDGs が示す課題解決に向けた思考を行って、実践に生かすことができるような構成になっていることが秀逸であると考えました。

さらに、歴史を未来志向型に考えるような発想に驚きましたし、とても良いと思いました。また手塚治虫さんが掲載されていることもあり、帝国書院の教科書が良いと思いました。

以上です。

○教育長 古笛委員、お願いいたします。

○古笛委員 私も最終的に帝国書籍にさせていただきました。

現在、新宿区で使っているのは東京書籍の教科書であり、評価も良かったので、この2者で本当にすごく迷いましたが、学校調査で現在使っている東京書籍より、帝国書院の評価が高かったことを重く受け止めました。

それから、特設ページの「タイムトラベル」、1ページで何となくその時代が見えてくるイラストがとても良いと思いました。

また、帝国書院の教科書では、社会科全体として、SDGsや、未来志向なものなど、コンセプトが全面的に出ているため、同じ発行者の教科書が勉強しやすいのではないかと感じました。

○教育長 私からも意見を述べさせていただきます。私も皆さんと同様、帝国書院とさせていただきます。

「タイムトラベル」では、各時代の様子を漫画やアニメの要素を踏まえて見開きで見せており、絵の中でどんな出来事が起きているか探すクイズの要素が入っています。この時代にどんなことが起きていたのか、楽しみながら歴史に入っていくことができることや、ほかにも特設ページやコラムが豊富であり、さらなる学びの展開につながっていくと思い、私も帝国書院とさせていただきました。

今までの協議の内容の確認をさせていただきます。

社会（歴史的分野）については、本日の協議を踏まえ、皆様の総意として、帝国書院発行の教科用図書を、採択の対象となる教科用図書の候補とするということによろしいでしょうか。

[異議なしの発言]

○教育長 それでは、そのように進めてまいります。

次に、社会（公民的分野）について、説明をお願いいたします。

○教科用図書検討委員会委員 それでは、社会科（公民的分野）についての調査検討内容の説明を行わせていただきます。

まず、学校調査の結果についてでございます。最もA評価が多かったのは東京書籍で、10校中8校がA評価でございました。次にA評価が多かったのは帝国書院で、10校中6校がA評価でございました。調査委員会の調査結果は、東京書籍と帝国書院が総合評価でAでございました。教育出版がB評価、そして日本文教出版、自由社、育鵬社がC評価というところ

でございました。

検討委員会では、帝国書院をA評価といたしました。その理由・意見として、他教科や他分野との結びつきをしやすい、また「アクティブ公民」や「18歳の準備」のページで、ライフプランなどを取り扱っております。金融、為替などへの興味・関心を高めさせるような工夫がなされていること、また、法令などの収録が多いことなどが意見として挙げられておりました。

また、検討委員会では、他者に関する意見として、東京書籍は、防災、震災、復興に関する取扱いが手厚く、学習を深める課題が設定されていることなどが良い点として挙げられておりました。また、教育出版は、生徒の実生活に即した題材等が多く、生徒も社会的な課題に対する問題意識を持ちやすいのではないかという意見も挙げられておりました。

最終的に、検討委員会として学校調査、調査委員会調査の報告などを踏まえ、教科書を確認しながら総合的に判断した結果、学校調査でA評価が多く、調査委員会でも評価の良かった帝国書院をA評価といたしました。

以上でございます。

○**教育長** 説明が終わりました。御質問がありましたらお願いいたします。

[発言する者なし]

○**教育長** 御質問がなければ、採択に最もふさわしいと考える教科用図書について、各委員の御意見を確認していきたいと思っております。

年綱職務代理人、お願いします。

○**年綱委員** 正直言いまして、東京書籍と帝国書院2者、とても私は悩みました。ただ、社会科を広く捉えた場合に、子どもたちが教科書の内容で混乱しないほしい思いで教科書を確認したところ、同じ発行者の教科書が良いのではないかと考えました。そのため、私は帝国書院がいいと思っています。

その理由は3つあります。1つ目は、公民も地理・歴史と同じように、小学校の学びの上に地理・歴史、他の教科との関連が各単元のページに示されていることです。

2つ目は、公民に適した思考ツールが示されていることです。課題解決のために思考ツールを使う例の提示は、生徒たちが積極的に考え方を深め、意見交換をする際、判断力に変わっていくのではないかと思います。

3つ目は、各ページのイラスト、それから実地的な写真が充実しており、生徒たちが身近なこととして捉えることができるので、興味・関心が高まっていくのではないかと思います。

です。

○**教育長** ありがとうございます。星野委員、お願いいたします。

○**星野委員** 私も東京書籍と帝国書院、大変迷いました。一番迷った点は、成人年齢についてです。東京書籍では「18歳でできること、20歳でできること」、帝国書院では「18歳への準備」という項目があります。東京書籍の場合、見開きでインパクトがある表現をしていますが、これを見ただけで、生徒は自分が18歳になったというような認識が生まれ、公民への興味が生まれてくると思いました。帝国書院の場合、ばらばらに掲載されており、そのたびに思い起こすという点では良いかもしれません。よって、私は東京書籍のほうがインパクトがあると思いました。

しかし、教科書を読み込んでいきますと、帝国書院の教科書は、選挙制度の項目等が特に分かりやすく、SDGsが大切であることを巻頭に掲載しています。また、「アクティブ公民」の項目があり、自分で考える、深く考えることができるようになっています。公民は、世界地理との関係が強くなってくると考えています。その点で地図との連携がなされていることや、学校調査、調査委員会、検討委員会の評価も含めまして、帝国書院がいいと思いました。

以上です。

○**教育長** 的場委員、お願いいたします。

○**的場委員** 私も調査委員会と検討委員会でも評価が高かった東京書籍と帝国書院の教科書、本当にどちらも充実した内容で、学習の進め方や対話的な学びの設定なども非常によくできた教科書だと思います。本当に最後まで比べて悩んだ結果ですが、18歳に向けて扱ったテーマとSDGsの取り上げ方が良かった帝国書院を選びました。

どう良かったのかと申し上げますと、まず18歳の準備として3つの実践的なテーマを掲げていた点が高く評価できました。

1つ目のテーマであるメディアリテラシーのスキルを身に付けるということは、現代社会でとても重要になっていますし、2つ目のテーマの契約については、新宿区でも消費者教育を推進している内容であり、正しい知識を身に付けておくことで自分の身を守ることになるので、18歳になる前に詳しく扱っていることは、非常に良いと思いました。3つ目のテーマでは、生きる上で大事な金融教育を取り上げており、ライフプランから金融を考えていく流れは企業の研修でも扱われていますが、今のうちに中学生がお金の価値の重さを知り、限りあるお金をどう使うか考える力がつく内容だと思い、評価できました。

そして、帝国書院のもう一点良かったところは、SDGsの17の目標を様々なページで細かく載せている点です。「アクティブ公民」では、持続可能な社会のための支援策を提案されていたり、それから17の目標を振り返らせて考察してレポートを書いていく流れも非常に良いと思いました。

さらに、教科書を開いても分かるように、巻頭1、2ページには、「よりよい社会を目指して」というメッセージが大きく掲載されており、巻末では社会参画について考えさせる内容があります。生徒たちが社会的課題の理解を深めて、よりよい社会のために一市民として参画する意味を、ほかの教科書より強く訴えたつくりになっている帝国書院の教科書を選びたいと思います。

○**教育長** 鴨川委員、お願いいたします。

○**鴨川委員** 私も、学校調査では東京書籍が最もA評価が多いものの、検討委員会は帝国書院にのみA評価というところで、非常に悩みました。

また、現在使われている教科書は東京書籍のものであることから、悩む要素がとても多かった種目になります。その中で私は帝国書院を選ばせていただきました。

最も大きな決め手になったのは、最終部です。課題探究型学習のために、帝国書院の教科書は第5部全てが分かれており、緻密に、丁寧に掲載してあります。探究のレポートを完成させることは、中学生には難しいと思いますが、この課題探究型学習は、社会科、とりわけ公民で学習してほしいと思うことであるため、探究レポートを完成するまでの道筋が明瞭でボリュームがあるということから、帝国書院を選ばせていただきます。

ただ、先ほど委員長がおっしゃっていたとおり、週2時間程度しか時間がないということですから、最終部に至るまでにきちんと時間が確保されて、教えられるということが前提にはなると思います。

もう一つは、新宿区は多文化共生に力を入れていますが、グローバル化を扱った項目が各発行者でありました。その中で、多言語化した防災パンフレットや幾つかの取組に関して、とりわけ新宿区の多文化共生の現状に合致させるような内容が帝国書院の教科書に見られたことが、もう一つの決め手になっています。

それぞれ良い点があって迷いましたが、ほかの先生方もおっしゃったとおり、他領域、他種目で帝国書院を選んでいることもあり、共通性があったほうが良いと考えたことも補足的な理由になります。

以上です。

○教育長 古笛委員、お願いいたします。

○古笛委員 私も最終的には帝国書院にさせていただきました。

公民の教科書は、現在東京書籍のものを使用しており、学校調査で最もA評価が多かったため、教員にとって使い勝手が良いのだろうと思い、悩みました。また、東京書籍の教科書では、震災や復興の記載がいろんなどころに出てきており、今現在復興の過程にあるところから、良いと思いました。

最終的にどこで決めようかと考えました。注目したのは、各発行者の巻末資料に日本国憲法が掲載されている部分です。条文が載っており、右側に解説が出ている点は共通しています。ただ、帝国書院の教科書は、解説の中で言葉の意味に加えて、教科書の該当ページの引用がある点が良いと思いました。

それから、巻末資料「第二次対戦後のあゆみ」です。1940年代以降の一覧表でも、ただ単に出来事を並べるだけではなく、それぞれの出来事について、参照ページの記載があるちょっとした工夫が、子どもたちにとっては勉強しやすいと思い、僅差ではありますが、帝国書院にさせていただきました。

○教育長 ありがとうございます。私も帝国書院にさせていただきました。

様々な意見を聞いて、まさにそのとおりだと思っています。「アクティブ公民」について、特設ページにおいて10のテーマが用意されています。設定がすごく具体的な内容で、その状況の中で生徒たちはどういうふうにか考えるのか、何が正解なのか、そもそも正解はあるのか、様々な問いかけをしたり考えを広めたりする工夫がされていると思いました。

また、写真やグラフなどの資料も豊富で、いろいろなことを見つけ出したり、意外な資料やグラフから別の興味や関心が高まって想像力を広げられたりできたらいいなと思い、帝国書院とさせていただきました。

今までの協議内容の確認をしたいと思います。

社会（公民的分野）については、本日の協議を踏まえ、皆様の総意といたしまして、帝国書院発行の教科用図書を採択の対象となる教科用図書の候補とするということによろしいでしょうか。

[異議なしの発言]

○教育長 それでは、そのように進めさせていただきます。

次に、地図についての説明をお願いいたします。

○教科用図書検討委員会委員 それでは、地図についての調査検討内容の説明を行います。

まず、学校調査の結果についてでございます。最もA評価が多かったのは帝国書院で、10校中8校がA評価でございました。調査委員会の調査結果は、東京書籍と帝国書院が総合評価でAでございました。

検討委員会では、帝国書院をA評価といたしました。その理由・意見として、地域の特色や諸事情などにも考察が及び、また、地名、地図、俯瞰図の記載数が多く、系統も詳細であるなどの意見が挙げられておりました。

また、検討委員会では、他者に関する意見として、東京書籍はSDGsの特集や現代の諸課題を取り上げたり、地理分野や歴史分野との学習との関連性が図られた効果的な地図帳であるなどが良い点として挙げられておりました。

最終的に、検討委員会として学校調査、調査委員会調査の報告などを踏まえ、教科書を確認しながら総合的に判断した結果、学校調査でA評価が最も多く、調査委員会でも評価の良かった帝国書院をA評価といたしました。

以上でございます。

○**教育長** 説明が終わりました。御質問がありましたら、お願いいたします。

[発言する者なし]

○**教育長** 特になければ、採択に最もふさわしいと考える教科用図書について、各委員の御意見を確認したいと思います。

年綱職務代理者から、お願いいたします。

○**年綱委員** 私は、帝国書院を選ばせていただきました。

一言で言うならば、見やすい地図です。私も地図は帝国書院で学んできているため、見慣れていると思っていたのですが、客観的に見ると、色使い、字の大きさ、イラスト、レイアウトが、見やすく分かりやすいと思いました。資料も豊富で、地理的分野、歴史的分野、公民的分野との連携できる内容なので、学習効果が上がっていく地図だと思います。

以上です。

○**教育長** 星野委員、お願いいたします。

○**星野委員** 私も帝国書院にさせていただきました。

東京書籍と帝国書院、4年前の教科書を拝見したときは、東京書籍の地図帳の質が高くなってきたと感じており、帝国書院の教科書と遜色ないと感じていました。当時は、資料の多さという点では、東京書籍の教科書の方が多く、東京書籍を選んだ委員もいたと記憶しています。

今回の地図帳を見ても、東京書籍は資料数は多いですし、日本の統計において、年齢や産業別が数字だけじゃなくてグラフになっているなど、資料が見やすくなっております。そういう点で、変わらず東京書籍の資料はいいなと思いました。

しかし、地図の見やすさ、コントラスト、他の社会科の教科書が全部帝国書院で一致している状況であるため、地図は帝国書院に合わせておいたほうが良いと思い、帝国書院にさせていただきました。

以上です。

○教育長 的場委員、お願いいたします。

○的場委員 地図を比較したときに、一般図も鳥瞰図も主題図も全てにおいて見やすく、分かりやすく、眺めているだけでわくわくする地図、それは帝国書院のほうでした。

特に鳥瞰図は迫力があり、山脈の険しさが伝わってきますし、地形を視覚的に捉えられる点は素晴らしいと思いました。

また、見やすさで言うと、修学旅行で行く近畿地方の地図は大変大きくて、名所や観光スポットが載っているため、自分たちで地図を見ながらプランを考える参考にもなり、楽しく学べると思いました。

SDGsについては、テーマごとに分けて説明があったり、地図の中にもところどころSDGsと関わる資料に小さなマークがあるため、生徒が様々な角度から持続可能な社会について考えられる資料として、非常に情報量も内容も濃いと感じました。

帝国書院は地理、歴史、公民の教科書の内容も優れており、授業とも関連したつくりになっている地図を使うことで、生徒が学びやすいと思い、帝国書院を選びました。

○教育長 鴨川委員、お願いいたします。

○鴨川委員 昨年度も小学校の教科書採択のときに申し上げましたが、私は地図帳が大好きで、上京するときの荷物に地図帳だけは必ず入れていました。ただ、予断は差し挟まずに両者の教科書を拝見させていただきましたところ、私も帝国書院を選ばせていただきたいと思いますと思っています。

私はアジアを専門にしており、アジアに行くことが多いことから、1つ何か軸を持って見たほうが良いなと思い、アジアの地図を特に見ました。また、新宿はアジアにつながりを持つ生徒が多いという点でも、そこに注目をして拝見したときに、主題図のテーマ設定が多様であったということが、ひとつ良いなと思った点です。また、ほかの委員の先生方もおっしゃっていたとおり、写真や地図の色合いが、見やすいというのがあります。そこもとても

大きな理由になっています。

もう一つ付け加えるならば、「地図で発見」があり、ここは社会の諸課題について、単に個人で学ぶだけではなくて、おそらく協働的な学びというのも想定されたつくりになっていること、また、現代的な学びに沿うような地図帳になっていると思い、帝国書院を選びました。

以上です。

○教育長 古笛委員、お願いいたします。

○古笛委員 私も、最終的には帝国書院の地図にさせていただきました。帝国書院の表紙だけを見ても懐かしく感じましたが、予断を持たないように全部拝見させていただきました。学校調査、調査委員会調査、検討委員会調査で評価の高かったことを重要視し、帝国書院にしましたが、東京書籍におかれても、分かりやすく作られているなど感じました。私自身は帝国書院だけでなく、東京書籍も見やすいと感じており、「ミツバチーズ」と一緒に世界旅行をするという設定は、地図を見ることが楽しいと思わせると感じました。

東京の中心部ということで新宿区は出てきますが、新宿区の地図を見ようとすると、東京書籍は地図を縦にしなければならないですが、それはそれで大きく写っていて見やすいと感じました。決め手となったのは、帝国書院は現在の東京都の地図と江戸時代の地図が掲載されており、ちょっとした工夫ですが、面白みを感じることができました。

最終的には、それぞれほかの教科書と、社会の教科との関連で、帝国書院で地理や歴史、公民と全部揃えたほうが良いと思い、帝国書院を選びました。

○教育長 ありがとうございます。私も、地図は帝国書院とさせていただきました。

グラフ、写真、図、地名数などを比較した資料があったのですが、帝国書院は記載数が多かったです。

それから、「地図で発見」というコーナーが随所に見られて、地図だけで社会の課題などに触れたり、またはグループで活動することもできたりすることも考えられて作られていると思いました。また、古笛委員からもありましたけれども、歴史的なところと関連させようといったような工夫も随所に見られたことから、帝国書院にさせていただきました。

今までの協議内容の確認をしたいと思います。

地図については、本日の協議を踏まえ、皆様の総意として、帝国書院発行の教科用図書を、採択の対象となる教科用図書の候補とするということによろしいでしょうか。

〔異議なしの発言〕

○教育長 それでは、そのように進めたいと思います。

ここで、社会科調査委員会委員長には、御退席をいただきます。ありがとうございました。

[社会科調査委員会委員長 退席]

○教育長 次に、理科について説明をお願いいたします。

○教科用図書検討委員会委員 それでは、理科についての調査検討内容の説明を行います。

まず、学校調査の結果についてでございます。最もA評価が多かったのは東京書籍で、10校中7校がA評価でございました。調査委員会の調査結果は、東京書籍が総合評価でAでございました。

検討委員会では、東京書籍をA評価といたしました。その理由、意見として、実験、観察などの探究過程を生徒が理解しやすいこと、また理科の見方、考え方を生徒が分かりやすく記述していること、「身近な物質について考えよう」など、生徒の考える力を養うこともでき、SDGsにつながっている点も評価されておりました。

また、検討委員会では、他者に関する意見として、啓林館は身近な事柄をコラムに取り上げ、科学と関連して考えることができるような工夫があるなどが良い点として挙げられておりました。

最終的に、検討委員会として学校調査、調査委員会調査の報告などを踏まえ、教科書を確認しながら総合的に判断した結果、学校調査でA評価が最も多く、調査委員会でも評価のよかった東京書籍をA評価といたしました。

以上でございます。

○教育長 説明が終わりました。御質問がありましたら、お願いをいたします。

[発言する者なし]

○教育長 特にないようですので、採択に最もふさわしいと考える教科用図書について、各委員の御意見を確認したいと思います。

年綱職務代理人、お願いいたします。

○年綱委員 ほとんどの発行者で、写真や学び方のツールが充実していると思えました。自分たちが学んでいたときの教科書とは違うなと思えました。

その中でも、特に東京書籍は物の見方・考え方を具体的にどのようにやっていくのかを生徒にとって分かりやすく書かれておりましたし、実験、観察など調べたことをどのようにまとめていくことができるのか、探究の過程を大切にしていると思えました。

また、将来、高校、大学に進学したとき、あるいは社会に出たとき、そして実生活で物事

を説明するときなどに、学んだ応用力が活かされるのではないかと思い、私は東京書籍といたしました。

○**教育長** 星野委員、お願いいたします。

○**星野委員** 私も東京書籍にいたしました。

啓林館についても検討させていただきました。一番分かれた部分が、レポートの書き方についてです。東京書籍は1から書くような説明がされているのに対して、啓林館は別冊の探Qシートがあり、フォーマットができています。これをどう捉えるか。最初なので分かりやすいフォーマットができたものを選ぶべきなのか、それとも将来に向けて1からレポートを書く練習をするのかという点で、どちらがいいのかなと個人では判断できなかつたのですが、その点が大きく分かれている点だと思いました。

その中で、東京書籍は、「教えて〇〇さん」という社会につながる科学、要するに今学んでいる科学がいかに社会につながっているかというコラムがあり、理科を学ぶということから、最終的にそれを自分たちの生活にいかに反映するかというのが大事だと思いました。そのため、最終的には委員会等の評価も高い東京書籍にいたしました。

以上です。

○**教育長** 的場委員、お願いいたします。

○**的場委員** 教科書を読み比べてみますと、内容の素晴らしさもさることながら、表紙の写真だけで、生徒たちの「なぜ」や「どうして」など、興味をもたせるインパクトがあった東京書籍を私は選びたいと思います。

教科書の中の写真について触れますと、1年生の植物や動物の分類、そして2年生の植物の細胞の写真が、大きくてとても見やすかつたです。また、全体的に文字だけでは想像しにくい事象を効果的な写真を用いて説明しており、非常に分かりやすく、高く評価できました。

それから、スケッチの仕方や生物カードの例も分かりやすく見本を載せているため、観察などが苦手な生徒でも非常に参考になると思いました。

実験に関しても、どういう目的でどのような手順で進めていくのが明確で、把握しやすいですし、器具の使い方も見やすく分かりやすいのと、巻末で薬品の取扱いを載せている点も評価できた点です。

先ほど調査委員長や星野先生からも御紹介ありましたが、「社会につながる科学」では、様々な職業の方から科学がどのように使われているのか、科学の面白さについて語られていることも良いと思っており、これを読んだ生徒たちが少しでも科学を身近なものとして捉え

て好きになってほしいと思いました。

また、同様に「まちなか科学」や「歴史にアクセス」の漫画についても、興味・関心を引き出すような内容で、大変評価できました。

以上のことから、私は東京書籍を選びたいと思います。

○教育長 鴨川委員、お願いいたします。

○鴨川委員 理科は、本当に苦手な分野・教科であり、真面目に取り組んでおけばよかったと、親になってから痛感しました。

視点を少し定めて、理科が苦手だな、嫌いだなと思う人の視点から見たときに、魅力的な教科書はどれだろうかと考え、私は東京書籍を選ばせていただきました。

先ほどの場委員もおっしゃいましたが、まず表紙にインパクトがあり、どうしてこうなるんだろうと生徒が感じると思いました。理科に興味を持ってないと感じている生徒にとって、導入がとても良いと思ったところです。

また、大きな写真、カラフルなイラストにより、理科が苦手にならないように、また、理科から離れないようにする工夫が凝らされていると感じました。専門的なことはあまり分からないので申し上げられませんが、その点、意外に大事なことはないかと考えました。

もう一つは、理科の見方・考え方があらかじめ明示されているということが、分かりやすいところ、単元の終わりにそれぞれ学習内容の整理が示されており、しっかりまとめることができる構成になっているところも魅力を感じた点です。

以上のことから、東京書籍を選ばせていただきました。

○教育長 古笛委員、お願いいたします。

○古笛委員 私も、最終的には東京書籍にさせていただきました。

啓林館の教科書も面白いなと思いました。元素の周期表を懐かしく見ていたのですが、啓林館の元素表には「単体の写真」を掲載しており、すごく新鮮でした。

新宿区の場合、理科は頑張ってください必要がある科目なので、生徒が勉強しやすい教科書がよいと考えました。その結果、どの単元の説明も丁寧であるとの調査委員会の報告があった東京書籍にさせていただきました。

○教育長 私も東京書籍とさせていただきました。

図や写真が豊富だということや、実験のところでは、課題の発見から考察までの発問がすごく丁寧に書かれていると思いました。特に、理科は実験や観察を通して学ぶ教科だと思うのですが、実験や観察をすればいいというわけではなく、そこから何を学んでいくのかとい

うことが非常に大切なのだと思います。

仮説を立てたり実証したりする中で、本当に間違いないのか、正しいと判断して良いのか、自分の中に繰り返し問いかけていくことが大切です。大人になって、理科でなくても、生活する場面で疑問に思ったとき、理科を通して考え方のベースが身に付くとうれしいと思っています。

今までの協議内容の確認をさせていただきます。

理科につきましては、本日の協議を踏まえ、皆様の総意として、東京書籍発行の教科用図書採択の対象となる教科用図書の候補とすることよろしいでしょうか。

〔異議なしの発言〕

○教育長 ありがとうございます。

ここで、理科調査委員会委員長には、御退席をいただきます。ありがとうございました。

〔理科調査委員会委員長 退席〕

○教育長 次に、国語についての説明をお願いいたします。

○教科用図書検討委員会委員 国語についての調査検討内容の説明を行います。

まず、学校調査の結果についてです。最もA評価が多かったのは光村図書で、10校中9校がA評価でございました。調査委員会の調査結果は、光村図書が総合評価でAでございました。

検討委員会では、光村図書をA評価といたしました。その理由、意見として、特に語彙ブックが優れており、思考力、判断力、表現力を高める工夫が見られること。また、詩歌やSNSに関する教材が多く、作品の取上げが多角的であり、話すこと、聞くことの活動が充実しているなどの意見が挙げられておりました。

また、検討委員会では、他者に関する意見として、三省堂、色の発色がよく図や絵などの資料が見やすく、生徒に現物をイメージさせやすいなどが良い点として挙げられておりました。

最終的に、検討委員会として、学校調査、調査委員会調査の報告などを踏まえ、教科書を確認しながら総合的に判断した結果、学校調査でA評価が最も多く、調査委員会でA評価であった光村図書をA評価といたしました。

以上でございます。

○教育長 説明が終わりました。御質問がありましたら、お願いをいたします。

〔発言する者なし〕

○**教育長** 特に御質問がなければ、採択に最もふさわしいと考える教科用図書について、各委員の御意見を確認したいと思います。

年綱職務代理人、お願いいたします。

○**年綱委員** 私は光村図書がよいと思いました。教科書を読んでいて楽しかったです。各单元ごとに学習活動の目標が示されている点、学習内容が明確なため、見通しを立てて学べる点、また、単元で取り上げられた作者の作品や関連作品が単元の終わりに紹介されている点が良いと思いました。また、その名のとおり「広がる読書」は、読者の世界観、物事を見る世界観が広がっていくと思いました。

言葉を大切にし、表現力が身につく語彙ブックは、小学生からの言葉もデジタルコンテンツに収められており、語彙の深さが深まり、広がりを知り、自分の言葉で表現する力になると思いました。言葉や語彙を大切にする点からも、光村図書の評価が高いことに納得できました。

よって、私は光村図書と決めさせていただきました。

○**教育長** 星野委員、お願いいたします。

○**星野委員** 私も、光村図書にいたしました。

1年生の教科書巻頭「言葉に出会うために」で、国語に対する楽しさや勉強の仕方など、導入に適したものが一番最初に置かれています。内容に関しては、自分で読んでみると少々難しいと思うものが多かったですが、調査委員会等の評価がAということは、今の中学生は読めて当たり前なのだろうと感じ、自省しました。

語彙ブックに関しましては、1つにまとめられているということは、後で読む際に、大変使いやすかったです。内容的にはオーソドックスな教科書ですが、やはり調査委員会等の評価が高いという点も考慮し、光村図書を選びました。

対抗としましては、三省堂の教科書を読ませていただきました。評価できる点は「歌の言葉」というものがあり、歌の歌詞が載っているのですが、ボブ・ディランがノーベル文学賞を取る時代であるため、歌も文学・国語であるという部分も示されており、その点は面白いと思いました。

語彙に関しては、掲載されているものの、ばらばらに載っており、その点も考慮して、最終的には光村図書を選ばせていただきました。

○**教育長** 的場委員、お願いいたします。

○**的場委員** 学校訪問しておりますと、とにかく表現能力や対話・コミュニケーション能力を

高めることを目標に掲げております。語彙を豊かにするということは、全ての教科に役立ちますし、学校生活を送る上で自分の気持ちを言語化して、感情をコントロールしやすくなったり、周りにも配慮しながら感情を伝えたりすることも可能になるので、友人関係を円滑に進められるのではないかと考えております。そこで、光村図書の語彙ブックは大変役立つのではないかと思い、高く評価いたしました。

また、光村図書の「言の葉ポケット」では、語句の意味を調べさせたり考えさせたり、1年生のページにはスピーチするときの参考になる表現が載っていたりと、学びを深めることができますし、学びへの扉はあえて横書きにしており、観点別に見やすく、分かりやすくまとめてあり、生徒たちが学びを自分のものにすることができると思いました。

ほかにも、光村図書では、ほかの教科とも結びつく魅力的なページがたくさんございまして、2年生の「平家物語」は見開きになっており、紙質を変えて興味・関心をもたせたり、あと、「最後の晩餐」の絵を折り込みページで紹介したりしており、非常にインパクトがありました。

それから、3年生の「奥の細道」も見開きで、俳句、地図が載せられており、生徒たちがイメージしやすいつくりになっており、とても良いと思いました。

東京書籍でも、「平家物語」と「奥の細道」に関しては、同じようなページのつくり方でしたが、東京書籍は地図に番号が振ってあって説明を探さないといけないのですが、光村図書は地図に主な戦いが既書き込んであったり、俳句が読まれた場所の写真がすぐに分かる工夫があったりしたので、その点、高く評価できました。

さらに申し上げますと、2年生の教科書では、プレゼンテーションのやり方、そして3年生の教科書ではスピーチなどの工夫などにも触れておりまして、どちらも聞き手の心をどのように動かせるのかということ非常に分かりやすく書いてあるので、生徒たちが授業に活かせると思いました。

以上のことから、楽しく言葉を身に付けて、これからの社会を生きる力を育てられる光村図書を私は選びたいと思います。

○教育長 鴨川委員、お願いいたします。

○鴨川委員 私も光村図書を選ばせていただいております。

1年生の教科書の見開きを開いたときに、谷川俊太郎さんの詩と写真があります。光村図書の美術の教科書も同様だったかと思いましたが、違うところは二次元コードです。美術の教科書は、二次元コードを読んで朗読を聞くことができる、見ることができるというつなが

りがありましたが、国語は、あえて二次元コードを載せず、自分できれいな写真ときれいな言葉を見て自分で音読をすることが大事なのだらうと思いました。教科書冒頭から、光村図書はいろいろな工夫をなさるので、すごいと思いながら拝見しました。

良いと思った点が幾つかあるのですが、1つは、もう既に先生方おっしゃっているんですけども、国語が苦手である生徒や、外国につながりを持つ生徒など、読み書きでつまずきがちな生徒が新宿区には少なくない数おられると思いますが、そういう方たちを想定したつくりになっている点です。

具体的には、小学校で学習した語彙も確認できるようになっているというところで、中学校では差ができてしまうところですけども、そういう方たちも取り残さないようにする構成になっている点が、良いと思いました。

先生方がおっしゃっている語彙ブックについて拝見すると、「思考するときの言葉」がとりわけ良いなと思いました。先ほど理科で星野先生もおっしゃっていたように、レポートをいろんな場所で書かなければいけないときに、「思考するときの言葉」を含め、この語彙ブックを手元に置いておけば、教科を超えて活用することができると思いました。

しかし、語彙ブックを切り取ろうと試みてみたのですが、切り取れないようになっていました。おそらく、紛失してしまうからかと思いますが、その辺議論があったのかなというのは少し疑問に思ったところです。

以上です。

○教育長 古笛委員、お願いします。

○古笛委員 私も、光村図書です。

学校調査で10校中9校がA評価をつけているという、この結果を覆すだけの力はないというのが大きな理由です。各教科書を拝見させていただきましたが、どれが好きかと言われると、どれもきれいな教科書で様々な題材を取り上げられており、読みやすいし、三省堂もすごく良い教科書だと思いました。教科書として使うときに、各單元ごとに振り返りがあって、国語を勉強するという意味では、光村図書が良いと思ったので、光村図書にさせていただきました。

○教育長 私も光村図書にさせていただきます。

既にお話が出ておりますけれども、「語彙ブック」、それから「言の葉ポケット」があり、豊かな表現を身につけようということで、良い取組だと思います。

それから、歴史や理科など、ほかの教科書との関連をつけようとしている工夫や、SNS

に関するものなども取り上げて、今の子どもたちが身近に感じる作品を取り上げられているところも良いと思います。学校調査、調査委員会、検討委員会、全ての結果も踏まえて光村図書にさせていただきました。

それでは、今までの協議内容を確認させていただきます。

国語については、本日の協議を踏まえて、皆様の総意として、光村図書発行の教科用図書を採択の対象となる教科用図書の候補とするということによろしいでしょうか。

[異議なしの発言]

○**教育長** それでは、そのように進めさせていただきます。

次に、書写について説明をお願いいたします。

○**教科用図書検討委員会委員** それでは、書写についての調査検討内容の説明を行います。

まず、学校調査の結果についてです。最もA評価が多かったのは光村図書で、10校中7校がA評価でございました。調査委員会の調査結果は、光村図書が総合評価でAでございました。

検討委員会では、光村図書をA評価といたしました。その理由、意見として、書写ブックの別冊が充実しており、常用漢字表がカラーで印刷されていて、生徒が見やすいなどの意見が挙げられておりました。

また、検討委員会では、他者に関する意見として、東京書籍は中学生の視点で親しみやすいデザインとなっており、視覚イメージから意欲的に取り組めるような工夫があるなどが良い点として挙げられておりました。

最終的に、検討委員会として、学校調査、調査委員会調査の報告などを踏まえ、教科書を確認しながら総合的に判断した結果、学校調査でA評価が最も多く、調査委員会でA評価であった光村図書をA評価といたしました。

以上でございます。

○**教育長** 説明が終わりました。御質問がありましたら、お願いいたします。

[発言する者なし]

○**教育長** 御質問等ないようですので、採択に最もふさわしいと考える教科用図書について、各委員の御意見を確認してまいります。

年綱職務代理者から、お願いいたします。

○**年綱委員** 学校訪問をしていても、日常生活の子どもたちの様子を見ていても、タブレット端末を使うことが増えてきており、文字を書くとか、きれいに書くという習慣が、だんだん

薄れてきているように思います。

光村図書の書写ブックを拝見したときに、非常に充実しており、なぞり書きでも落ち着いて書くことができ、文字を正しく書く時間になると思いました。

日本の文字文化を忘れず、この文字文化を伝承していくという点からも、行書を書くことができる点は、とても良いことだと思います。

また、楷書と行書の書き方が並んで載っている「常用漢字表」がとても見やすく、比較しやすいし分かりやすかったです。

私は、日本文化を大事にするという点から、また、自分たちの心と向き合うという点からも、この書写ブックのある光村図書がいいと思いました。

○教育長 星野委員、お願いします。

○星野委員 私も光村図書の教科書を読ませていただきました。取り外し可能な書写ブックに関しては、どこでも持ち歩きできるということで、大変便利だろうと思いました。

また、「行書スイッチを入れよう」に関しまして、どこが悪いか、どういうことに気をつけて書けばいいのか、4つのスイッチで指摘できるという点は、指導が行き届くのではないかと思います。

以上の点から、光村図書を選ばせていただきました。

○教育長 的場委員、お願いします。

○的場委員 私が教科書を読み比べていましたら、娘が行書に大変興味を持ち、私の隣で筆ペンで練習をし始めました。これはいい機会だと思い、各発行者の教科書を使いながら実際に教えてみました。そのときに、娘に一番アドバイスしやすかったのが光村図書でした。

「学びのカギ」に簡潔に書かれていた漢字の筆遣いや、点画の変化や連続についても、教科書どおりに「ぴょん」や「ぴたっ」と言いながら、書くポイントを伝えやすかったですし、他発行者よりもリズムや筆圧の調整が非常に分かりやすく示されているので、目で見て学びやすい教科書だと思い、高く評価できました。

そして、「中学書写スタートブック」においても写真で分かりやすく説明されていますし、特に「タブレットを活用しよう」では、書いている姿勢や筆遣いを撮影し合うことで、各々が自分の課題を見つけられるという点は、良い活用方法だと思いました。

また、ほかの教科書と違い、書写ブックが別冊になっており、活用しやすそうですし、内容が分かりやすく見やすかったことが大変評価できました。

以上の理由で光村図書を選びたいと思います。

○教育長 鴨川委員、お願いします。

○鴨川委員 私はSDGsの仕事をするのが割合あるのですが、各教科、各種目、各発行者で、今回はとにかくSDGsがふんだんに盛り込まれているという印象があります。ただ、まさか書写はSDGs関係ないだろうと思いながら拝見していたら、SDGsに関する項目が書写にもあって驚いたというのが、まず1つです。光村図書だと141ページに書かれており、驚いた次第です。もう1つは、コラム「自分らしい文字」です。これはユニバーサルな視点でも、特別支援という意味でも、多様性への配慮がなされていると思いました。文字をきれいに書きなさい、丁寧に書きなさいと言われても書けない子どもたちが一定程度いる中で、自分らしい文字でもいいんだよと掲載していることは、大変大きな、そして強いポジティブなメッセージになると思います、とても良いと思いました。

私自身も書道を多少たしなむのですが、楷書から行書に移るときに、つまずいたり難しいと感じる面があったりして、そのときに「行書スイッチを入れよう」と非常にキャッチーな、生徒たちにとってもイメージしやすい言葉を使ってコーナーをつくっているというところは、とても良いと思った次第です。

以上の点から、光村図書が良いと思いました。

○教育長 古笛委員、お願いします。

○古笛委員 私も最終的に光村図書にさせていただきました。

どの教科書も、習字を習う、硬筆を習うということでは、それぞれ面白いと思ったのですが、光村図書の教科書を読んでいると、「手書きっていいんだよ」ということを全面的に推しておりまして、「手書きのよさって何だろう」で、イラストを用いて考えようと捉えられていたり、それからコラム「自分らしい文字」で、様々な人のいろんな文字を紹介していただいたり、書写の教科書ですが、読んでいてとても面白いなと思ったため、光村図書にさせていただきました。

○教育長 私も、光村図書にさせていただきました。

従来の毛筆だったり硬筆だったりといったところでの取組はさすがだなと思いつつ、さらに現代風に、116ページ、117ページ辺りですけれども、「タッチペンでの署名」や「デジタル付箋」、「プレゼンテーション」で、すぐに使えそうな取組も、書写の中で載せている点が面白いと思いました。

そのほか、コラム「文字の歴史を探る」で、文字の成り立ちを二次元コードから見る事ができるという楽しみもあることから、光村図書にさせていただきました。

以上の議論を踏まえまして、協議内容の確認をしたいと思います。

書写については、本日の協議を踏まえ、皆様の総意として、光村図書発行の教科用図書を採択の対象となる教科用図書の候補とするということによろしいでしょうか。

[異議なしの発言]

○**教育長** ありがとうございます。それでは、そのように進めたいと思います。

ここで、国語科調査委員会委員長には、御退席をいただきます。ありがとうございました。

[国語科調査委員会委員長 退席]

○**教育長** 以上で、本日の社会（地理的分野）、社会（歴史的分野）、社会（公民的分野）、地図、理科、国語、書写の採択対象となる教科用図書の候補の絞り込みを終了いたします。続けて、次に進みます。

次に、これまでの協議において、採択の対象となる教科用図書の絞り込みが2種となっている種目は数学でございました。東京書籍と啓林館発行の教科用図書を採択の対象となる教科用図書の候補としたところでございますが、本日改めて採択の対象となる教科用図書の候補を1種に絞り込みたいと思いますので、御意見をお伺いしていきたいと思います。

前回の結果からいきますと、東京書籍4名、啓林館2名でしたので、少数の意見から聞いていこうということで、星野委員からお願いできればと思います。よろしく願いいたします。

○**星野委員** 啓林館を選んだ一番の理由は、最初に出てくる問題が取り組みやすいという点でした。ただし、ほかの委員の皆様の御意見等をお聞きする限りでは、日常生活を数学的な見方で考える、要するに日常生活の応用例を考えますと東京書籍のほうが分かりやすいということと、あと、定理に関しまして、教科書を読んでいくと、東京書籍は必要な部分にまず定理が載っています。また、巻末「まなびのマップ」にも、まとめとして定理が載っています。啓林館に関しましては、必要な部分には載っておらず、最後にまとめとして載っているという点がありました。そういう点で、定理というのは中学生にとって一つの鬼門みたいな部分があり、それを分かりやすく示すという点では東京書籍のほうが良いと考えまして、意見を変更して東京書籍にさせていただきます。

○**教育長** 的場委員、いかがでしょうか。よろしく願いいたします。

○**的場委員** 現在使用している東京書籍も、もともと啓林館同様非常に見やすく分かりやすい教科書だとは思っておりました。もう一度教科書を読み直しましたところ、東京書籍は日常の場面の中にある問題を取り上げていたので、大変生徒たちの興味を引き、数学を身近に

感じることができるので大変良いと思いましたが、それから章の問題がA、Bに分かれており、学びのベースや補充問題もあるので、自分の定着度に応じた学びができる点で、私も東京書籍がよろしいのではないかと考えております。

以上です。

○教育長 次に、前回東京書籍を選んだ4名の方からも意見がさらにあれば、お聞きしたいと思います。順番に聞いていきたいと思います。

鴨川委員、お願いいたします。

○鴨川委員 特に私は東京書籍から変更ありません。数学を苦手な生徒さんの目線で見るときに、東京書籍のほうの方が優れているのではないかと考えました。また、「MATH CONNECT」に魅力を感じている点が挙げられます。おおむね前回と同じですので、以上です。

○教育長 古笛委員、お願いします。

○古笛委員 前回東京書籍を選びましたが、啓林館と2つの教科書を比べてみて、啓林館に意見を変えようかとも一瞬考えました。啓林館の理科の教科書を読んでいたときも思ったんですけども、確かにすっきりして面白いという印象をもちました。しかし、教科書として勉強するとき、東京書籍のほうの方が習熟度別で先生が対応するという意味では良いと思われ、意見は変えないことにしました。

○教育長 年綱職務代理者、お願いいたします。

○年綱委員 では、最後に申し上げます。

私も東京書籍と啓林館をじっくり読み直しました。私は数学がすごく苦手なのですが、啓林館の教科書は、苦手意識のある生徒たちが構えることなく学んでいけるのではないかと考えました。東京書籍は、単元ごとに基本問題があり、章ごとにA問、B問、活用問題と分かれていることで、生徒一人一人の特性、学習状態に応じて使うことができると改めて思いました。前回、生徒一人一人の理解度の差に現場の先生方は苦慮なさっていませんかと質問させていただいたのですが、習熟度別の少人数で教えているので苦慮はしていないと力強いお答えをいただきました。

数学に興味のある生徒たちが主体的に学ぶ力を伸ばすことができる、そして興味を持ち始めた生徒たちは、先生方の助言を受けつつ主体的に学んでいくことができる、苦手な生徒たちは基本をベースに自分のペースでじっくりと学んでいくことができるという点を考えて、新宿区の数学の底上げと発展的な学びを考えたときに、私は東京書籍で頑張りたいと思います、東京書籍にさせていただきます。

○教育長 最後に、私も東京書籍のままでいきたいと思います。理由は、既にたくさんの先生方が述べられているので割愛させていただきます。

今回の協議内容の確認をさせていただきます。

数学については、東京書籍発行の教科用図書を採択の対象となる教科用図書の候補とするということによろしいでしょうか。

[異議なしの発言]

○教育長 ありがとうございます。

以上で本日の協議は終了いたしますが、事務局から何かありますでしょうか。

○教育調整課長 特にございません。

◎ 閉 会

○教育長 それでは、本日の教育委員会を閉会いたします。

ありがとうございました。

午後 3時47分閉会